

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第710号 平成26年3月27日

ノーチャイム運動

学校といえば、「キーンコーン、カーンコーン」というチャイムの音を懐かしく思い起こしますが、愛知県刈谷市内の6つの中学校からは、この懐かしい音は聞こえて来ません。それは、いずれの学校でも「ノーチャイム運動」を実施しているからという訳です（1月16日付朝日新聞から）。

「ノーチャイム運動」は、子ども達の時間に対する意識を高めると共に、先の見通しを立てて自主的に行動する力を身に付けさせようという意図のもとに取り組みられているもので、そうした取り組みは刈谷市内の中学校に止まらず、全国的に広がりつつあるように感じます。

刈谷市立刈谷南中学校が「ノーチャイム運動」の導入を決めたのは平成14年度の事です。当時の学校は、授業開始のチャイムを聞いても席につかなかったり、チャイムを聞いてから教室に入り始めたりと時間にルーズな子ども達が多かったそうです。

当時の校長先生が「どうせ守らないなら、いっそチャイムをなくしてはどうか」と職員会議で提案したのが発端で「ノーチャイム運動」がスタートしたのだそうです（1月16日付朝日新聞から）。学校では、この運動を続けてきた結果、子ども達に時間を意識して動く習慣が身に付いたと、その効果を実感しているとの事です。

チャイムは時間を知らせるためのものですから、時間を意識して行動するという点で意味がない訳ではありませんし、何より、卒業後に学校生活を思い出すツールの一つでもあります。にもかかわらず、このチャイムの評判が今一つ良くないのは、教師や子ども達のチャイムに対する受け止め方に大きな問題があるからだと思います。

例えば、授業スタートの合図のチャイムが鳴ったら直ちに授業に入らなければならないのに、先程の様に、チャイムの音を聞いてから行動するという事になると、実際に授業が始まるのは5分も10分も遅れてしまいます。

本来子ども達は、チャイムが鳴る前に席につき授業を受ける準備を整えて置くべきですし、先生の方も、チャイムが鳴ったら直ちに授業を始められるよう予め教室に入っているべきです。

時間を管理し、先を見通しながら行動する事は、私達が現代社会で生活する上で

必須の能力といえます。約束した時間も守れないという事では、社会的な信用を得る事は困難ですから、子ども達には主体的に時間管理を行って行動できる力を身に付けて欲しいと思っています。

そのための方法として、「ノーチャイム」は重要な選択肢だと思います。ただ、チャイムを鳴らすのを止めれば子ども達が主体的に行動できるようになる、等という事は殆ど考えられません。従って、子ども達に対しては、「2分前着席」を徹底する等、時間管理がきちんとでき、チャイムが鳴らなくても主体的に必要な行動を取る力が身に付くよう学校教育活動全体を通して指導して行く必要があります。

勿論、一人一人の教師も率先垂範し、子ども達の良き見本にならねばなりません。「ノーチャイム運動」は、そうした学校全体の取り組みと連動して初めて機能し、成果が期待できるものだと思います。(塾頭：吉田 洋一)